



HORSTON ta-ko (ホーストン ターコ) さん

三木伴子 (みきともこ) さん

(北杜市)



山梨県が主催する「女性起業支援プロジェクト Co+Shegoto (コーシゴト)」。起業したい女性と支援機関や金融機関が共に学び、共に歩みながら起業まで、また開業後もサポートするプロジェクトです。わたしたち「びゅあ」もプロジェクト支援機関として、微力ながら起業を目指す女性に協力しています。そこで、先日びゅあ総合を会場として開催した「Co+Shegoto」の講座に参加して下さったお二人に、お話を伺いました。

HORSTON ta-ko さん

まず、ta-ko さんは現在どのような事業を起業しようとしているのでしょうか、教えていただけますか？



具体的にはまだ公にできないのですが、自然素材を使ったエコな生活用品の製品化です。

自然素材については自分で育てた農産物を使います。それを加工して製品にして売り出そうと考えています。

まだ秘密なんですね。実は私は存じているのですが、大きな広がり期待できるすごく楽しみな製品です。でも、まだナイショですよ(笑)。どんなきっかけがあって起業を考えるようになったのでしょうか。

約20年間広告のデザインや映像制作の仕事をしてきました。山梨に移住してからも東京に行ったり来たりしながら仕事を続けてきましたが、広告の仕事をしていく中で、自分が一から生み出してパッケージまでデザインしたモノを製品化してみたいと思うようになりました。そして、それは自分が居る山梨の生活とリンクしたものが良いと考えました。

そうした中、新型コロナの流行があり、ずっと東京の方を向いて仕事していたと思っていた気持ちに変化がありました。身近にある耕作放棄地などを利用して、この素晴らしい環境を守りながら新たな仕事を始めるべきだと思ったのです。

そんな時、北杜市に女性起業家セミナーがあったことを思い出して調べてみたのですが、今年は情報が見つからず、いろいろ探していたら「Co+Shegoto」のサイトを見つけました。県や市など公的な機関が関わっていることが決め手の一つでした。

10年前に夫と起業しましたが、起業の相談先の存在も知らず行き当たりばったりで、お金のことや事務的なことはよく分からないまま専門の方にお任せしてしまっていたので、何からやればいいのか疑問だらけでしたが、今回は自分に合った支援機関がありそうでした。

また、事業計画についてぼんやりしている部分もあったので、今回セミナーに参加して第三者に自分の計画を話すうち、何がアピールポイントなのか、何が人を納得させるのかが少し見えてきました。

ta-ko さんの起業に、山梨への思いが詰まっていることはとてもうれしいです。一からモノを作り出す、ということは難しいことのように思えますが、ta-ko さんの起業を登山に例えると、今は何合目ぐらいでしょうか？見えているもの、見えていないもの、不安や期待など、思い切って言ってみませんか？

まだ、明日の準備をしてリュックに荷物を詰めているところです。でも登山のスケジュールはちゃんと立てています。

不安と言えば、家庭菜園くらいしかやったことがないので農作物を育てるのがうまくいくのかどうか……。来年一年は準備期間として色々研究したいです。

これから頂上を目指す、「始まる前」のドキドキが伝わってきます。最後に、この起業によって ta-ko さんが目指すものは？

社会的意義がある仕事したいとずっと思っていました。

この製品が世に出るのは社会、環境にとってとても意味のあることだと信じています。また、この製品によって多くの人気がつき、考えるきっかけになればと思っています。小学生や小さな子供達にも収穫体験などをしてもらう機会を設けて、たく

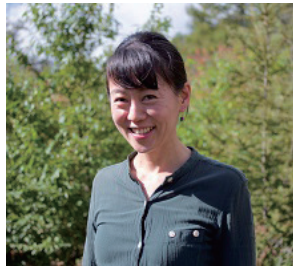


さんの人を巻き込みながら社会の意識を変えていきたいです。

三木 伴子 さん

まず、三木さんは現在どのような事業を起業しようとしているのでしょうか、教えていただけますか？

現在すでに受注生産という形で、モンテッソーリ教育に使われる家具や教材の製作をしています。日本にはたくさんの子どもの商品がありますが、実はそのほとんどが養育者（大人）のためのものです。子どもが自分で一人で活動する助けになるためのものは多くはありません。現在、写真の棚や椅子、テーブルを保育園向けに制作して、納めさせていただいています。



「モンテッソーリ教育の家具や教材の製造・販売」について、教えていただけますか？

モンテッソーリ教育とは150年前にイタリアで生れたマリア・モンテッソーリによって体系づけられた教育方法です。彼女はイタリアで女性で初めての医師であり、また女性の賃金格差や雇用機会の均等などを訴えた社会活動家でもあります。彼女が発見した子どもの本来の姿は世間で考えられているものと大きく異なりました。子どもは知的で好奇心に溢れ、また情熱を持って様々なことに取り組みます。それが出来ないのは環境が整っていないからなんです。

例えば、子どもは大人が使っているものになんでも興味を持ちますよね？私の2歳になる娘も、掃除機や包丁、スコップや鎌、なんでも使いたがります。でも大人が使うものでは大きすぎて、使うことが出来ないのです。子どもは大人がやっていることをやりたいんです。本物の道具を使い、活動したいと思うのです。そのためモンテッソーリ教育では、子どもの大きさに合ったものを用意します。子どもサイズの椅子やテーブルはもちろん、調理器具だったりガーデニング用品であったり、掃除用具やさまざまな子どもサイズの本物を用意し、子ども自身が自分で選んで自分で活動できるように大人が準備します。そうしたものは世の中で探そうとすると意外と難しいんです。こんなに物の溢れた日本ですら、1歳4カ月の子が持つ椅子やちょうど良い高さのテーブルは中々ありません。子どものサイズにあった、その月齢・年齢の子どもの能力を最大限引き出せる家具や教材はモンテッソーリ教育には不可欠なんです。子どもは自分の身体にぴったりと合う道具を使い、活動することで自分を楽しみながらより良く感覚器官や精神を形作っていくことが出来るんです。

子どもの大きさに合ったものという、当たり前にあるようで、奥が深いですね。三木さんは、どんなきっかけがあって起業を考えたようになったのでしょうか？

元々は芸術系の大学を出て、専門は工芸でした。大学で教えたり、ジュエリーの会社で仕事もしました。そんな中8年前出産した長男が、難病と共に生まれて長い入院生活を体験することになったのです。その中で、息子の発達の援助のために何が出来るのか悩みまし

た。様々な本を読む中で出会ったのがモンテッソーリ教育でした。当時はひたすら息子のために病院の制約をクリアでき、かつ息子の発達の援助になるおもちゃを作っていました。消毒できるとか、紙物は1週間で廃棄しなければならないため、夫と協力して1週間ごとに新しいモビールを作るとか。そんな中で、これを仕事にしていきたいという思いが沸き起こってきました。その後一大決心して、AMI (Association Montessori Internationale: 国際モンテッソーリ協会 本部: オランダ) の0~6歳の教師資格(ディプロマ)を取得しました。保育士の資格も取り、東京都の24時間保育をする大規模な認可保育園で2年間働きました。そして、周囲の方の教材が無くて困っているという声に後押しされて、今年は本格的に家具や教材の製作を始めました。

三木さんの登山で例えると、今は何合目ぐらいでしょうか？見えているもの、見えていないもの、不安や期待など、思い切って言ってみませんか？



まだまだ始めたばかりなので、平地にいる感じでしょうか？(笑) やっと登るべき山が見えたから、ベースキャンプをつくっているような感じです。山が見えたことでワクワクもしますが、正直不安の方が大きいです。

課題も山積みです。県内で良い木材に出会えるのか？必要な加工業者さんや材料の入手が出来るのか？とか。特にヨーロッパの基準をクリアできる塗料の入手と塗装技術を持った方と出会えるかどうか、教材づくりには不可欠な要素です。また、家具の製作も一人では難しいので、良い職人さんと出会いたいと思っています。お金のことももちろん心配(笑)。事業計画書を初めて書いてみましたが、途方もなくて作りながら孤独と絶望感と不安に襲われました。みんなこの道を通るんだ、先輩たちすごいな・・・と世の中で起業している人たちがキラキラ見えて、自信がなくなってきたりもしました。今は何とか踏みとどまっている感じです。

三木さんの今まで培った技術が生かされ、待っている皆さんの願いに届くような、そんな起業につながるといいですね。では最後に、この起業によって三木さんが目指すものとは何でしょうか？

私はモンテッソーリ教育に興味を持って学びましたが、世の中には他にもたくさんの研究がされていて、たくさんのすばらしい教育方法があります。子どもを育てる人すべて、子どもすべてが自分に合った教育方法を当たり前の選択肢として選べ、またその道のプロに助けてもらえる環境の整備が夢です。

北杜市にはまだモンテッソーリ・スクールがないので、ゆくゆくは0歳~18歳までのアメリカ・オハイオ州にある Hershey Montessori School のような学校も創りたいと思っています。